

報告書抄録

ふりがな	びわこせいほくぶのこてい・こがにいせき							
書名	琵琶湖西北部の湖底・湖岸遺跡							
シリーズ名	琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	11							
編著者名	小竹森 直子・濱 修 丸山 真二 (独立行政法人奈良文化財研究所)							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 / 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町4丁目1番1号 / 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月日	平成26年(2014年)3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
西浜遺跡	高島市 マキノ町地先	25521	012	35度27分44秒	136度4分17秒	260㎡	1983年度	海津舟溜り工事に伴う事前調査
森浜遺跡	高島市 新旭町森 地先	25526	039	35度22分30秒	136度2分44秒	1,257㎡	1972年度・ 1978年度	新川舟溜・航路浚渫工事に伴う事前調査
針江浜遺跡	高島市 新旭町 旭地先	25526	047	35度22分00秒	136度3分16秒	6,972㎡	1986年度～ 1989年度	針江大川航路浚渫工事に伴う事前調査
外ヶ浜遺跡	高島市 新旭町 外ヶ浜地先	25526	055	35度20分56秒	136度4分12秒	77㎡	1985年度・ 1986年度	航路浚渫工事に伴う事前調査
四津川遺跡	高島市 安曇川町 西津川地先			35度18分44秒	136度3分20秒	75㎡	1986年度	内水排除工事に伴う事前調査
大溝湖底遺跡	高島市 勝野地先			35度17分35秒	136度00分57秒	2,563㎡	1986年度～ 1988年度	大溝漁港航路浚渫工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
西浜遺跡	散布地	平安時代～中世			土師器・黒色土器・土錘			
森浜遺跡	集落跡	弥生時代後期末～古墳時代初頭		柱穴・土坑・溝	弥生土器・土師器・木製品	建物の屋根木舞と考えられる木製の組物や祭祀具と考えられる琴・大型盤が複数出土		
針江浜遺跡	集落跡	弥生時代前期		竪穴住居・掘立柱建物・土坑	弥生土器・木製品・石器	湖西地域における弥生文化導入期の集落		
		弥生時代中期		溝・埋没樹・地震跡	弥生土器・鳥形木製品	地震により発生した液状化による墳砂を平面・断面で確認		
外ヶ浜遺跡	散布地	古墳時代以降		耕作痕・畦畔	畦畔護岸材	周囲に当該期の遺構が存在するか		
四津川遺跡	散布地	近世～現代		二次的遺物包含層		明確な遺物包含層確認できず		
大溝湖底遺跡	散布地	縄文時代後期～晩期		埋没樹	縄文土器	周知の埋蔵文化財包蔵地としては未認定		
要 約	<p>西浜遺跡では、明確な遺構は確認できなかったが、古代以来、北日本と都を結ぶ交通の要衝の地であった海津での生活道具の実態を示す土器類が良好な状態で出土した。</p> <p>森浜遺跡では、弥生時代後期末～古墳時代初頭の遺構や汀線付近に堆積した土器・木製品類を検出した。柱材や多様な建築部材、さらに琴や管玉が出土していることから、単なる漁村ではなく湖上交通や祭祀に関わる施設・場所であったことが想定される。</p> <p>針江浜遺跡は、弥生時代前期～古墳時代頃に浜堤上に営まれた遺跡である。弥生時代前期の集落跡は、湖西地域での弥生文化導入期の実態を示す事例として注目される。また、弥生時代中期初頭に発生したと想定されるM7.0以上の大地震による噴砂や倒木は、今後の地震予測や防災にも重要な情報を提供している。</p> <p>大溝湖底遺跡では、縄文時代晩期以降に水没したヤナギの埋没樹の存在を確認した。</p>							